

# 米に関するマンスリーレポート

(平成24年10月5日公表)

### 【お知らせ】

- ※ 今号から、  
Ⅴ - (2) 「平成24年産水稻の作柄概況（9月15日現在）」  
Ⅴ - (4) - ② 「平成水稻うるち玄米の1等比率の推移」  
を掲載します。

### 【本資料の目的】

「米に関するマンスリーレポート」は、米に関する価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

### 【利用上の注意】

1. 「米に関するマンスリーレポート」は、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあります。
2. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
3. 本資料に関する問い合わせ先

生産局農産部農産企画課  
担当者：岩井、島本、鬼海  
代表：03-3502-8111（内線4975）  
ダイヤルイン：03-6738-8973  
FAX：03-6738-8976

# 目 次

I	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成24年9月）	1
II	集出荷段階の動向	
	（1）相対取引価格・数量	6
	① 相対取引価格（主な産地銘柄別、平成24年8月）	
	② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成23年産米）	
	③ 相対取引価格（年産別）	
	④ 相対取引数量（累積数量、主な産地銘柄別、平成24年8月）	
	（2）民間在庫（出荷段階）の推移	9
	（3）23年産米相対取引基準価格（全農）の推移	10
	（4）(株)加工用米取引センターの取引結果	10
	（5）米の先物取引価格の推移	11
III	卸売段階の動向	
	（1）民間在庫（販売段階）の推移	12
	（2）業者間取引の状況	13
	① 日本コメ市場（随時取引の結果）	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）	
IV	小売・消費段階の動向	
	（1）消費者物価指数の推移	14
	（2）小売物価統計の推移	15
	（3）小売価格の推移（POSデータ）	16
	（4）購入数量の推移（家計調査）	17
	（5）米の消費動向（米穀機構による調査）	18
V	生産段階の動向	
	（1）国産米（水稻）の作況・収穫量	20
	（2）平成24年産水稻の作柄概況（9月15日現在）	20
	（3）加工用米及び新規需要米の取組状況	22
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	（4）水稻うるち玄米の検査結果	23
	① 検査数量及び等級比率（年産別）	
	② 水稻うるち玄米の1等比率の推移	
VI	民間流通における6月末在庫の推移	24
VII	備蓄米及びMA米の動向	
	（1）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量	25
	① 24年産国内産米穀の政府買入入札の結果	
	② 国内産備蓄米の売渡数量	
	③ 政府備蓄米の在庫の状況（平成24年6月末現在）	
	④ 23年産米の特別隔離対策等による米の供給減少分の代替供給量	
	（2）MA米（一般・SBS）の動向	27
	① MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	
	② 一般輸入米（加工原材料用）の販売状況（平成24年度）	
	③ SBS米の販売状況（平成24年度）	

# I 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成24年9月)

○ 米取引関係者に対して、需給動向や価格水準などの取引動向に関するアンケートを実施し、その結果をDIとして算出したものである(詳細はP5)を参照。

## 1. 国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

### ①主食用米の需給動向

#### (ア) 現状判断DI

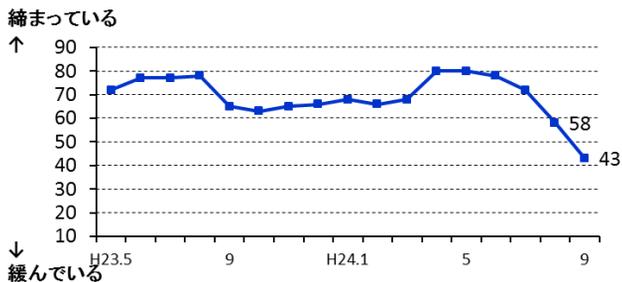
前月からの増減 -15 (今月の数値 43)

#### (イ) 見通し判断DI(向こう3ヶ月)

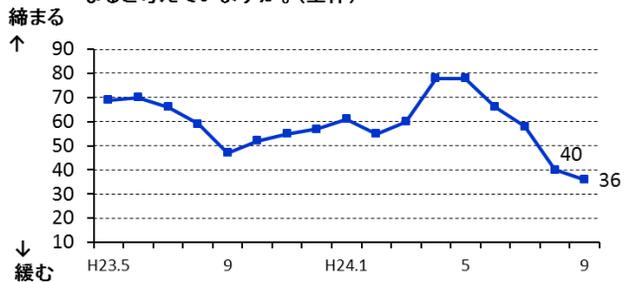
前月からの増減 -4 (今月の数値 36)

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

①-ア 国内の主食用米の”現在の需給動向”について、どう考えていますか。(全体)



①-イ 国内の主食用米の”向こう3ヶ月の需給動向”について、どうなると考えていますか。(全体)



### ②主食用米の米価水準

#### (ア) 現状判断DI

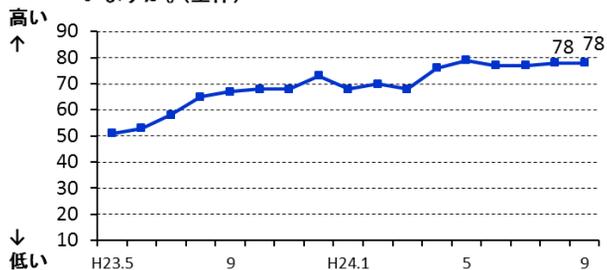
前月からの増減 ±0 (今月の数値 78)

#### (イ) 見通し判断DI(向こう3ヶ月)

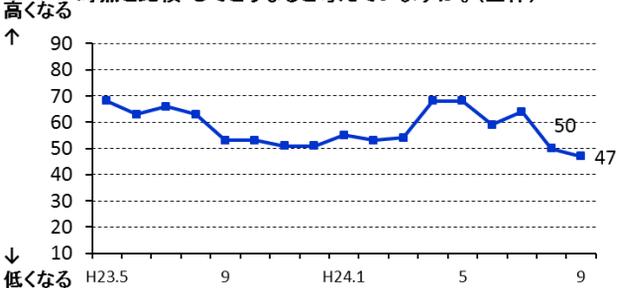
前月からの増減 -3 (今月の数値 47)

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、米価水準が高い/米価水準が高くなるという見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、米価水準が低い/米価水準が低くなるという見方が前月より強くなった傾向を示す。

②-ア 国内の主食用米の”現在の米価水準”について、どう考えていますか。(全体)



②-イ 国内の主食用米の”向こう3ヶ月の米価水準”について、”現時点と比較”してどうなると考えていますか。(全体)



### ③ 取引関係者が①及び②の判断を行うに当たり、主に考慮した要因

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	米穀の調達状況	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H23.5	3%	33%	12%	-	17%	7%	28%
H23.6	5%	38%	8%	-	20%	8%	20%
H23.7	7%	34%	11%	-	12%	8%	28%
H23.8	14%	28%	7%	-	19%	7%	25%
H23.9	22%	23%	4%	-	23%	7%	21%
H23.10	22%	23%	3%	-	27%	6%	19%
H23.11	14%	18%	3%	-	34%	10%	21%
H23.12	8%	11%	2%	46%	22%	3%	8%
H24.1	6%	14%	3%	48%	19%	2%	8%
H24.2	4%	17%	2%	48%	20%	3%	6%
H24.3	2%	14%	4%	54%	18%	2%	6%
H24.4	2%	9%	2%	69%	8%	5%	6%
H24.5	2%	13%	4%	66%	8%	4%	2%
H24.6	1%	15%	3%	61%	9%	6%	6%
H24.7	4%	22%	1%	62%	3%	3%	5%
H24.8	20%	10%	2%	46%	12%	3%	6%
H24.9	30%	4%	0%	44%	11%	4%	6%

## 2. 自社の取引状況に関する判断(業態毎)

### ①主食用米の販売数量

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「増えた」/「(将来)増える」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「減った」/「(将来)減る」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

#### (ア) 今月の販売数量に関する現状判断 D I

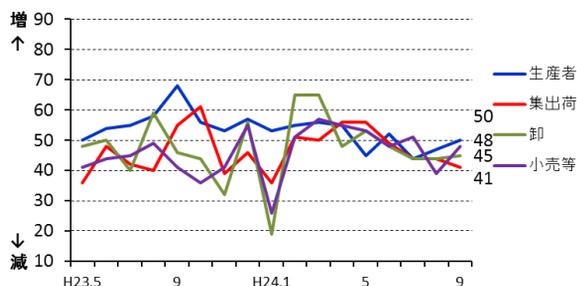
##### a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	+3	(今月の数値	50)
集出荷：前月からの増減	-3	(今月の数値	41)
卸：前月からの増減	+1	(今月の数値	45)
小売等：前月からの増減	+9	(今月の数値	48)

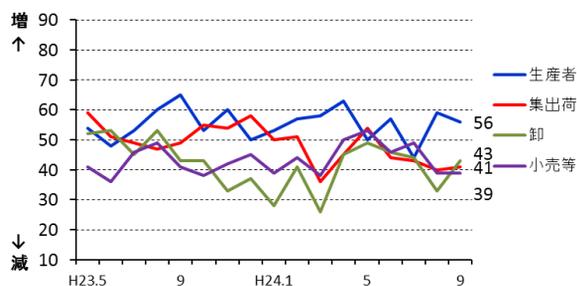
##### b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	-3	(今月の数値	56)
集出荷：前月からの増減	+1	(今月の数値	41)
卸：前月からの増減	+10	(今月の数値	43)
小売等：前月からの増減	±0	(今月の数値	39)

①-ア-a 貴社の“今月”の主食用米の“販売数量”について、“先月と比較”するといかがですか。



①-ア-b 貴社の“今月”の主食用米の“販売数量”について、“前年同月と比較”するといかがですか。



#### (イ) 来月の販売数量に関する見通し D I

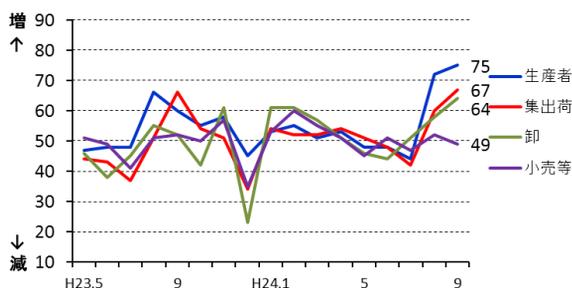
##### a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	+3	(今月の数値	75)
集出荷：前月からの増減	+7	(今月の数値	67)
卸：前月からの増減	+6	(今月の数値	64)
小売等：前月からの増減	-3	(今月の数値	49)

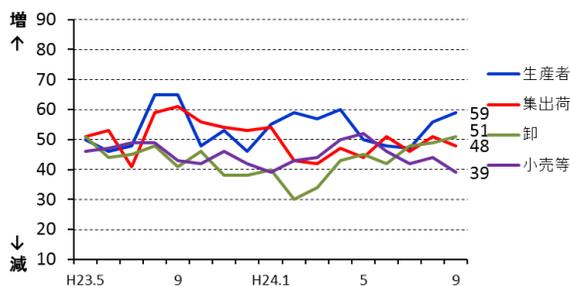
##### b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+3	(今月の数値	59)
集出荷：前月からの増減	-3	(今月の数値	48)
卸：前月からの増減	+2	(今月の数値	51)
小売等：前月からの増減	-5	(今月の数値	39)

①-イ-a 貴社の“来月”の主食用米の“販売数量”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



①-イ-b 貴社の“来月”の主食用米の“販売数量”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



## ②主食用米の価格

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「高くなった」/「(将来)高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「低くなった」/「(将来)低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

### (ア) 今月の価格に関する現状判断 D I

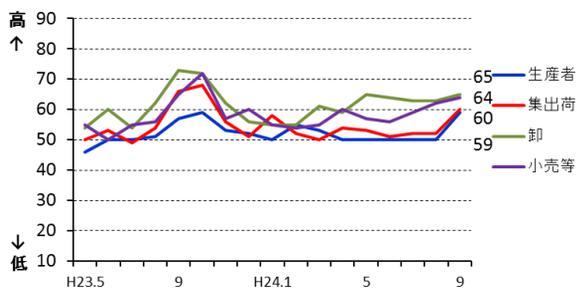
#### a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	+9	(今月の数値	59)
集出荷：前月からの増減	+8	(今月の数値	60)
卸：前月からの増減	+2	(今月の数値	65)
小売等：前月からの増減	+2	(今月の数値	64)

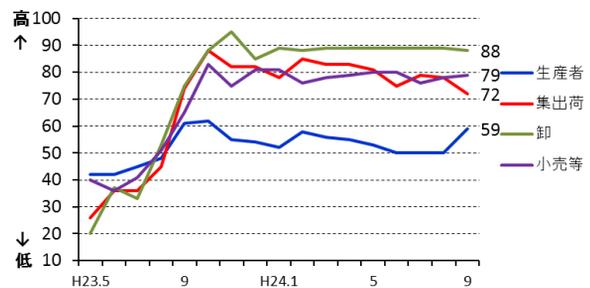
#### b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+9	(今月の数値	59)
集出荷：前月からの増減	-6	(今月の数値	72)
卸：前月からの増減	-1	(今月の数値	88)
小売等：前月からの増減	+1	(今月の数値	79)

②-ア-a 貴社の“今月”の主食用米の“価格”について、“先月と比較”するといかがですか。



②-ア-b 貴社の“今月”の主食用米の“価格”について、“前年同月と比較”するといかがですか。



### (イ) 来月の価格に関する見通し D I

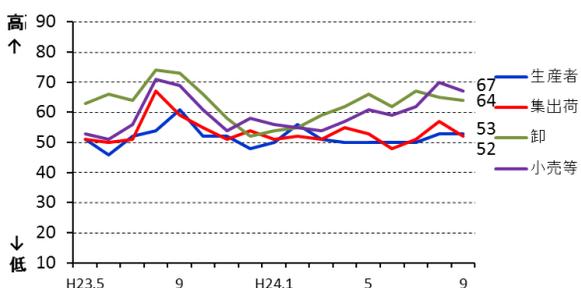
#### a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	±0	(今月の数値	53)
集出荷：前月からの増減	-5	(今月の数値	52)
卸：前月からの増減	-1	(今月の数値	64)
小売等：前月からの増減	-3	(今月の数値	67)

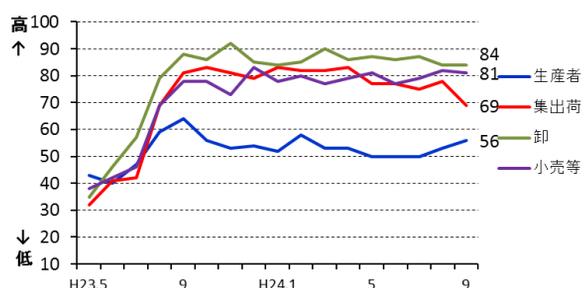
#### b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+3	(今月の数値	56)
集出荷：前月からの増減	-9	(今月の数値	69)
卸：前月からの増減	±0	(今月の数値	84)
小売等：前月からの増減	-1	(今月の数値	81)

②-イ-a 貴社の“来月”の主食用米の“価格”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



②-イ-b 貴社の“来月”の主食用米の“価格”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



### ③主食用米の在庫量

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「多くなった」/「(将来) 多くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「少なくなった」/「(将来) 少なくなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

#### (ア) 今月の在庫量に関する現状判断 D I

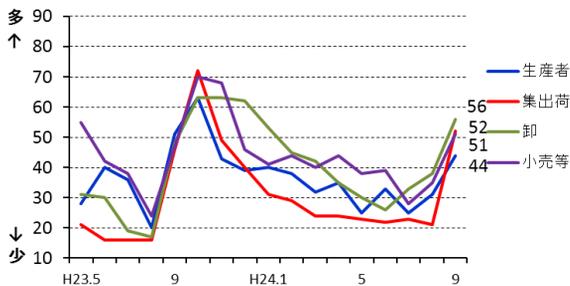
##### a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	+ 1 3	(今月の数値	4 4)
集出荷：前月からの増減	+ 3 1	(今月の数値	5 2)
卸：前月からの増減	+ 1 8	(今月の数値	5 6)
小売等：前月からの増減	+ 1 6	(今月の数値	5 1)

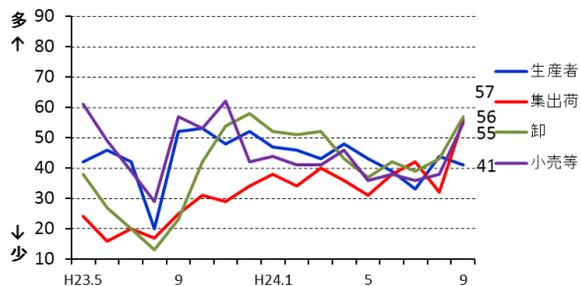
##### b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	- 3	(今月の数値	4 1)
集出荷：前月からの増減	+ 2 4	(今月の数値	5 6)
卸：前月からの増減	+ 1 4	(今月の数値	5 7)
小売等：前月からの増減	+ 1 7	(今月の数値	5 5)

③-ア-a 貴社の“今月”の主食用米の“在庫量”について、“先月と比較”するといかがですか。



③-ア-b 貴社の“今月”の主食用米の“在庫量”は、“前年同月と比較”するといかがですか。



#### (イ) 来月の在庫量に関する見通し D I

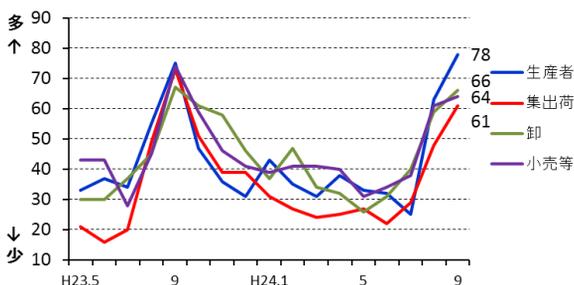
##### a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	+ 1 5	(今月の数値	7 8)
集出荷：前月からの増減	+ 1 3	(今月の数値	6 1)
卸：前月からの増減	+ 7	(今月の数値	6 6)
小売等：前月からの増減	+ 3	(今月の数値	6 4)

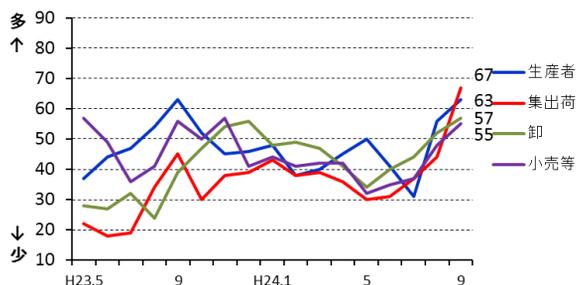
##### b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+ 7	(今月の数値	6 3)
集出荷：前月からの増減	+ 2 3	(今月の数値	6 7)
卸：前月からの増減	+ 5	(今月の数値	5 7)
小売等：前月からの増減	+ 7	(今月の数値	5 5)

③-イ-a 貴社の“来月”の主食用米の“在庫量”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



③-イ-b 貴社の“来月”の主食用米の“在庫量”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



《アンケート方法等》

○調査期間：毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答

○調査方法：電子メールを利用したアンケート調査

○調査対象者：全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の154客体

○有効回答数：123客体

- 生産者・・・・・・・・・・・・・8
- 集出荷業者／団体・・・・・・・・・・30
- 卸売業者（主に主食用米）・・・・31
- 小売業者／中食・外食関係業者・・36
- その他・・・・・・・・・・・・・18

※「その他」は以下の業者を示している。  
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者  
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品（酒類を含む）を製造・販売する者

《利用上の注意》

○表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しないことがある。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断（評価）にそれぞれ点数（評価点）を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じてDIを算出。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ（量感）を表すものではない。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが算出されることに注意が必要である。

（DIの算出例）

問：国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

## II 集出荷段階の動向

### (1) 相対取引価格・数量

#### ① 相対取引価格(平成23年産米の主な産地銘柄別、平成24年8月)(速報)

(単位:円/玄米60kg)

産地	品種銘柄 (地域区分)	24年8月 ①	【参考】			
			24年7月 ②	対前月比 ①/②	23年8月 (22年産) ③	対前年 同期比 ①/③
北海道	北海道 きらら397	—	—	—	—	—
	北海道 ななつぼし	—	—	—	—	—
東北	青森 つがるロマン	—	—	—	—	—
	青森 まっしぐら	13,675	13,790	(99%)	11,246	(122%)
	岩手 ひとめぼれ	14,566	14,629	(100%)	12,596	(116%)
	岩手 あきたこまち	—	—	—	—	—
	宮城 ひとめぼれ	—	—	—	12,667	—
	宮城 ササニシキ	—	—	—	—	—
	秋田 あきたこまち	15,695	15,423	(102%)	12,547	(125%)
	山形 はえぬき	14,248	14,416	(99%)	11,858	(120%)
	福島 コシヒカリ 会津	—	—	—	—	—
	福島 コシヒカリ 中通り	14,044	13,865	(101%)	—	—
	福島 コシヒカリ 浜通り	—	—	—	—	—
福島 ひとめぼれ	—	—	—	13,187	—	
関東・東山	茨城 コシヒカリ	15,611	15,700	(99%)	—	—
	栃木 コシヒカリ	15,382	15,405	(100%)	12,575	(122%)
	埼玉 彩のかがやき	—	—	—	—	—
	千葉 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	長野 コシヒカリ	—	—	—	—	—
北陸	新潟 コシヒカリ 一般	—	—	—	—	—
	新潟 コシヒカリ 魚沼	—	—	—	—	—
	新潟 コシヒカリ 佐渡	—	—	—	—	—
	新潟 コシヒカリ 岩船	—	—	—	—	—
	富山 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	石川 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	福井 コシヒカリ	—	—	—	—	—
福井 ハナエチゼン	—	—	—	—	—	
東海・近畿	三重 コシヒカリ 一般	—	—	—	—	—
	滋賀 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	滋賀 キヌヒカリ	—	—	—	—	—
	兵庫 コシヒカリ	—	—	—	—	—
中国・四国	鳥取 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	島根 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	広島 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	山口 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	徳島 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	香川 ヒノヒカリ	15,061	14,916	(101%)	11,772	(128%)
	高知 コシヒカリ	—	—	—	—	—
九州	福岡 ヒノヒカリ	—	—	—	—	—
	佐賀 夢しずく	—	14,567	—	—	—
	熊本 ヒノヒカリ	15,165	15,134	(100%)	—	—
	大分 ヒノヒカリ	—	—	—	—	—
	宮崎 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	鹿児島 ヒノヒカリ	—	—	—	—	—
全銘柄平均価格		15,541	15,643	(99%)	13,283	(117%)

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1:相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)の価格(運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。)であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。その際、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2:また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等(栽培方法等)の価格調整が行われることがある。

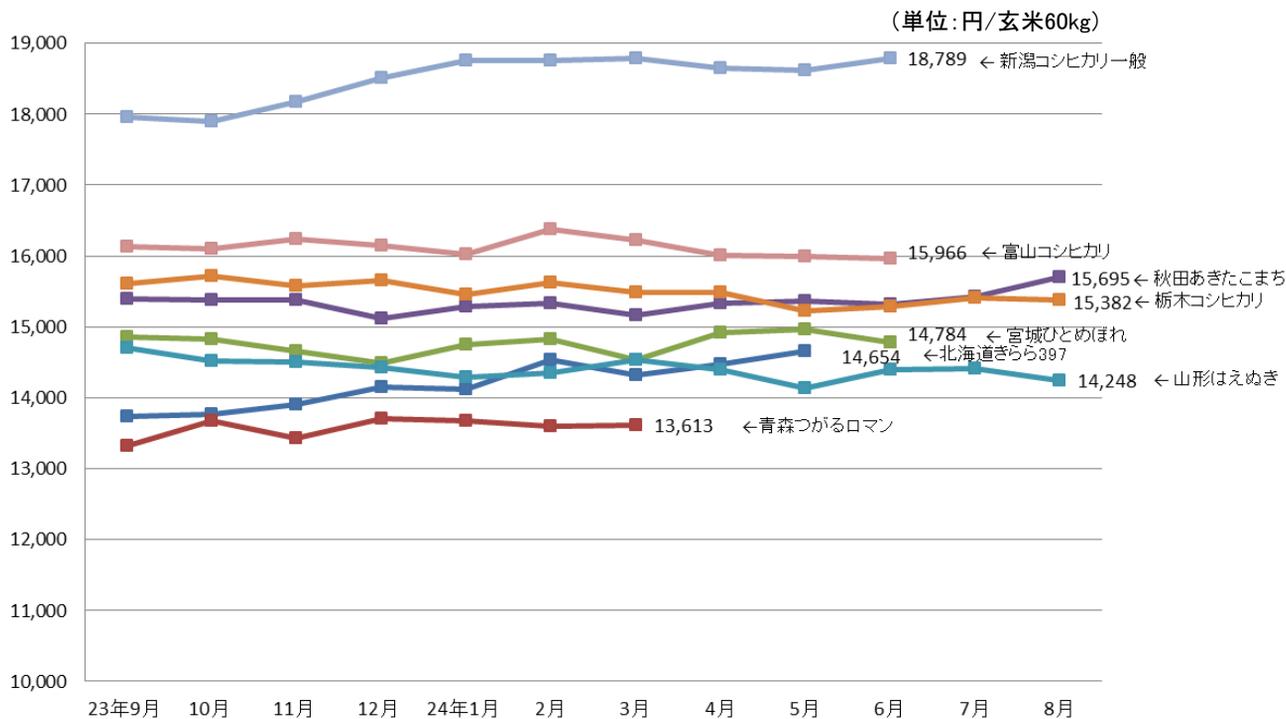
3:産地銘柄は、ア 22年産の公表対象産地銘柄が存在した道府県における当該産地銘柄、又はイ ア以外の道府県における22年産の検査数量の最も多かった1銘柄のうち、22年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のものであり、月1,000トン以上の取引があったものである。

4:全銘柄平均価格は、報告対象産地銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5:23年8月は22年産の価格である。

6:23年産については速報値である。

## ② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成23年産米）

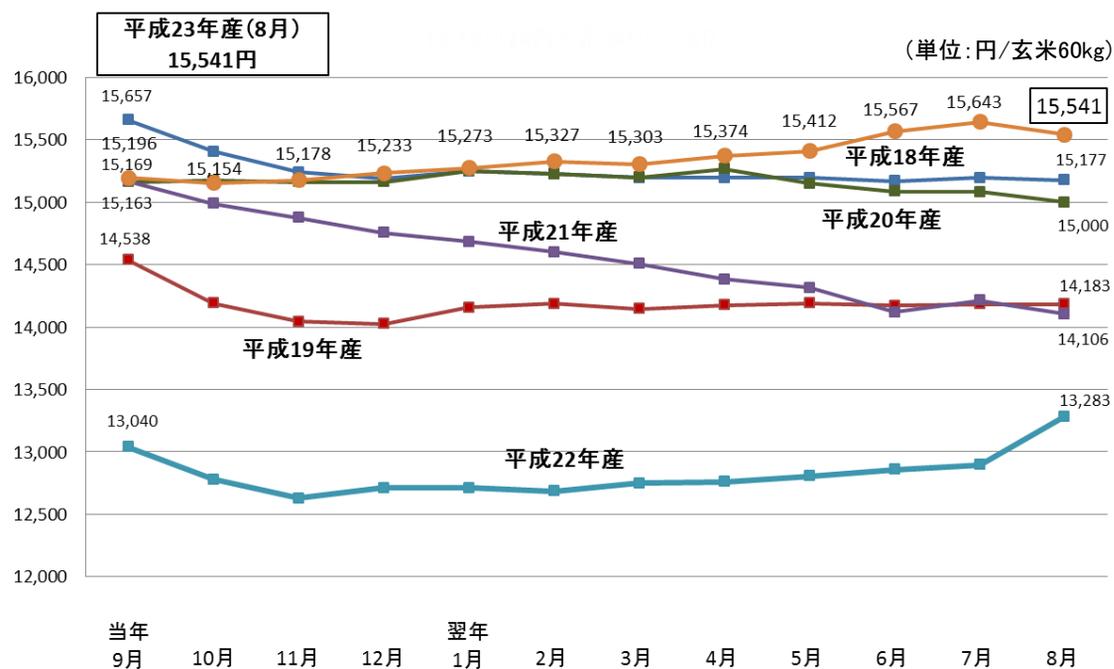


資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1: 相対取引価格に関する留意点については、6ページの注を参照。

注2: 月間の取引量が1,000トン未満となった産地銘柄については、当該月の価格は上表に掲載していない。

## ③ 相対取引価格（年産別）



資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注: 相対取引価格に関する留意点については、6ページの注を参照。

## ④ 相対取引数量

(累積数量、平成23年産米の主な産地銘柄別、平成24年8月)(速報)

(単位：玄米トン)

産地	品種銘柄	(地域区分)	23年産	(前年比)	(前々年比)	22年産	21年産	
			(24年8月まで)	①/②	①/③	(23年8月まで)	(22年8月まで)	
			①			②	③	
北海道	北海道	きらら397	128,215	(119%)	(150%)	107,967	85,255	
	北海道	なつぽし	155,444	(117%)	(170%)	133,286	91,486	
東北	青森	つがるロマン	41,778	(94%)	(71%)	44,400	59,109	
	青森	まっしぐら	69,453	(145%)	(139%)	47,891	49,828	
	岩手	ひとめぼれ	122,431	(112%)	(137%)	109,038	89,543	
	岩手	あきたこまち	26,646	(100%)	(99%)	26,669	26,788	
	宮城	ひとめぼれ	150,860	(96%)	(141%)	157,533	106,705	
	宮城	ササニシキ	12,283	(95%)	(120%)	12,928	10,260	
	秋田	あきたこまち	200,040	(99%)	(97%)	201,181	207,215	
	山形	はえぬき	130,366	(102%)	(102%)	128,250	128,005	
	福島	コシヒカリ	会津	34,908	(94%)	(89%)	37,154	39,381
	福島	コシヒカリ	中通り	43,049	(129%)	(95%)	33,361	45,223
	福島	コシヒカリ	浜通り	7,347	(43%)	(40%)	16,980	18,578
	福島	ひとめぼれ	34,525	(77%)	(69%)	45,038	50,070	
関東・東山	茨城	コシヒカリ	59,533	(118%)	(109%)	50,605	54,864	
	栃木	コシヒカリ	127,382	(104%)	(88%)	123,017	144,846	
	埼玉	彩のかがやき	12,503	(443%)	(104%)	2,822	12,069	
	千葉	コシヒカリ	39,387	(89%)	(87%)	44,282	45,414	
	長野	コシヒカリ	55,284	(95%)	(94%)	58,079	58,969	
北陸	新潟	コシヒカリ	一般	131,931	(99%)	(88%)	133,729	149,597
	新潟	コシヒカリ	魚沼	28,137	(140%)	(132%)	20,145	21,267
	新潟	コシヒカリ	佐渡	18,397	(112%)	(101%)	16,403	18,273
	新潟	コシヒカリ	岩船	14,515	(106%)	(95%)	13,667	15,315
	富山	コシヒカリ	96,936	(97%)	(118%)	100,087	81,924	
	石川	コシヒカリ	27,879	(91%)	(105%)	30,517	26,530	
	福井	コシヒカリ	24,922	(96%)	(88%)	26,080	28,292	
	福井	ハナエチゼン	12,016	(49%)	(60%)	24,352	20,149	
東海・近畿	三重	コシヒカリ	一般	15,510	(87%)	(92%)	17,800	16,824
	滋賀	コシヒカリ	25,563	(91%)	(97%)	28,053	26,327	
	滋賀	キヌヒカリ	13,244	(92%)	(89%)	14,440	14,916	
	兵庫	コシヒカリ	12,787	(86%)	(85%)	14,938	14,966	
中国・四国	鳥取	コシヒカリ	6,471	(60%)	(46%)	10,801	14,030	
	島根	コシヒカリ	23,378	(112%)	(99%)	20,901	23,686	
	広島	コシヒカリ	17,367	(75%)	(81%)	23,019	21,509	
	山口	コシヒカリ	15,016	(97%)	(86%)	15,456	17,533	
	徳島	コシヒカリ	9,899	(94%)	(86%)	10,553	11,521	
	香川	ヒノヒカリ	13,859	(86%)	(85%)	16,191	16,237	
	高知	コシヒカリ	6,082	(85%)	(69%)	7,166	8,863	
九州	福岡	ヒノヒカリ	22,623	(100%)	(81%)	22,639	27,888	
	佐賀	夢しずく	12,421	(101%)	(94%)	12,273	13,212	
	熊本	ヒノヒカリ	13,780	(190%)	(100%)	7,264	13,736	
	大分	ヒノヒカリ	11,326	(113%)	(69%)	9,988	16,442	
	宮崎	コシヒカリ	6,179	(81%)	(51%)	7,597	12,014	
	鹿児島	ヒノヒカリ	7,658	(219%)	(94%)	3,495	8,152	
全銘柄合計契約数量			2,583,668	(104%)	(101%)	2,482,817	2,553,951	

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

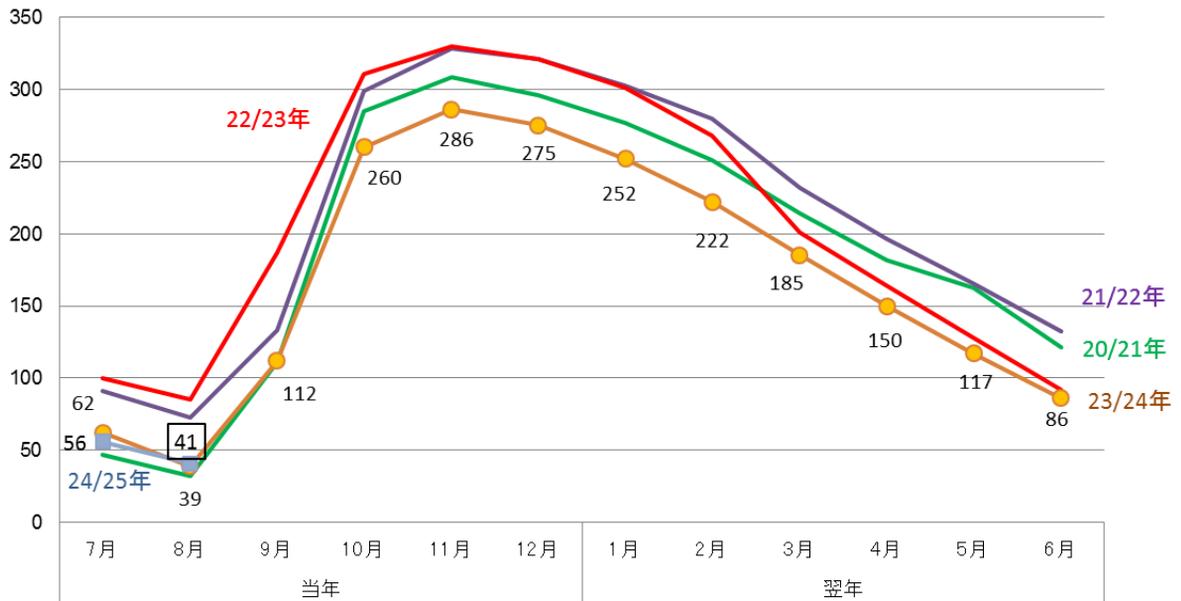
注1：相対取引数量は、ア 全国団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者が、卸売業者等と主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)を行った数量である。なお、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本の産地銘柄)については受渡地を西日本としているものを対象としている。

2：産地銘柄は、ア 22年産の公表対象産地銘柄が存在した道府県における当該産地銘柄、又はイ ア以外の道府県における22年産の検査数量の最も多かった1銘柄のうち、22年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のものである。

3：全銘柄合計契約数量は、農林水産省が公表している相対取引価格の報告対象銘柄の契約数量の合計。

## (2) 民間在庫（出荷段階）の推移

単位:万トン



(単位:万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
20/21年	47	32	111	285	308	296	277	251	214	182	163	121	191
21/22年	91	73	133	299	328	321	303	279	232	197	165	132	213
対前年差	+44	+41	+22	+14	+20	+25	+26	+28	+18	+15	+2	+11	+22
22/23年	100	85	187	311	329	321	301	268	201	164	128	92	207
対前年差	+9	+12	+54	+12	+1	▲0	▲1	▲11	▲31	▲32	▲37	▲40	▲5
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86	171
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6	▲36
24/25年	56	41											49
対前年差	▲6	+2											▲122

資料：農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」(~20年7月)、農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」(20年8月~)

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2：米穀の出荷の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が500トン以上の者の値である。

3：期間については、23/24年であれば、23年7月~24年6月である。

4：22/23年7月末以降は、速報値である。

5：23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。

6：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(3) 23年産米相対取引基準価格(全農)の推移  
(全農公表資料をもとに農林水産省において算出)

(円/60kg、建値:基準地着、1等、包装代・消費税込み)

期間	相対取引基準価格 (全農)	相対取引価格 (農林水産省)	期間	相対取引基準価格 (全農)	相対取引価格 (農林水産省)
23年 8/8~	15,912 (1)	非公表	2/6~	16,009 (57)	15,327 (107)
8/15~	15,408 (2)		2/13~	16,009 (57)	
8/22~	15,584 (5)		2/20~	16,009 (57)	
8/29~	16,120 (11)		2/27~	16,009 (57)	
9/5~	16,006 (19)	15,196 (84)	3/5~	16,009 (57)	15,303 (107)
9/12~	16,848 (29)		3/12~	16,009 (57)	
9/20~	16,638 (32)		3/19~	16,009 (57)	
9/26~	16,101 (43)		3/26~	16,009 (57)	
10/3~	15,887 (56)	15,154 (108)	4/2~	16,009 (57)	15,374 (101)
10/11~	15,887 (56)		4/9~	16,009 (57)	
10/17~	15,888 (56)		4/16~	16,009 (57)	
10/24~	15,884 (57)		4/23~	16,009 (57)	
10/31~	15,884 (57)	15,178 (106)	5/7~	16,009 (57)	15,412 (98)
11/7~	16,032 (57)		5/14~	16,009 (57)	
11/14~	16,032 (57)		5/21~	16,009 (57)	
11/21~	16,032 (57)		5/28~	16,009 (57)	
11/28~	16,032 (57)	15,233 (107)	6/4~	16,009 (57)	15,567 (102)
12/5~	16,032 (57)		6/11~	16,009 (57)	
12/12~	16,032 (57)		6/18~	16,009 (57)	
12/19~	16,032 (57)		6/25~	16,009 (57)	
12/26~	16,032 (57)	15,273 (107)	7/2~	16,009 (57)	15,643 (98)
24年 1/10~	16,032 (57)		7/9~	16,009 (57)	
1/16~	16,065 (57)		7/17~	16,009 (57)	
1/23~	16,065 (57)		7/23~	16,009 (57)	
1/30~	16,009 (57)		7/30~	16,009 (57)	

注1: 相対取引基準価格(全農)は、全農が公表している全産地銘柄の相対取引基準価格を基に、農林水産省において、消費税及び包装代(154円/60kg)を加算し、前年産の検査数量ウェイトを用いて加重平均したものの。

2: 相対取引基準価格(全農)の欄の括弧内の数字は、全農が公表している相対取引基準価格の産地銘柄数。

3: 相対取引価格(農林水産省)の欄の括弧内の数字は、農林水産省が公表している相対取引価格の全銘柄平均価格の算出に用いた産地銘柄数。

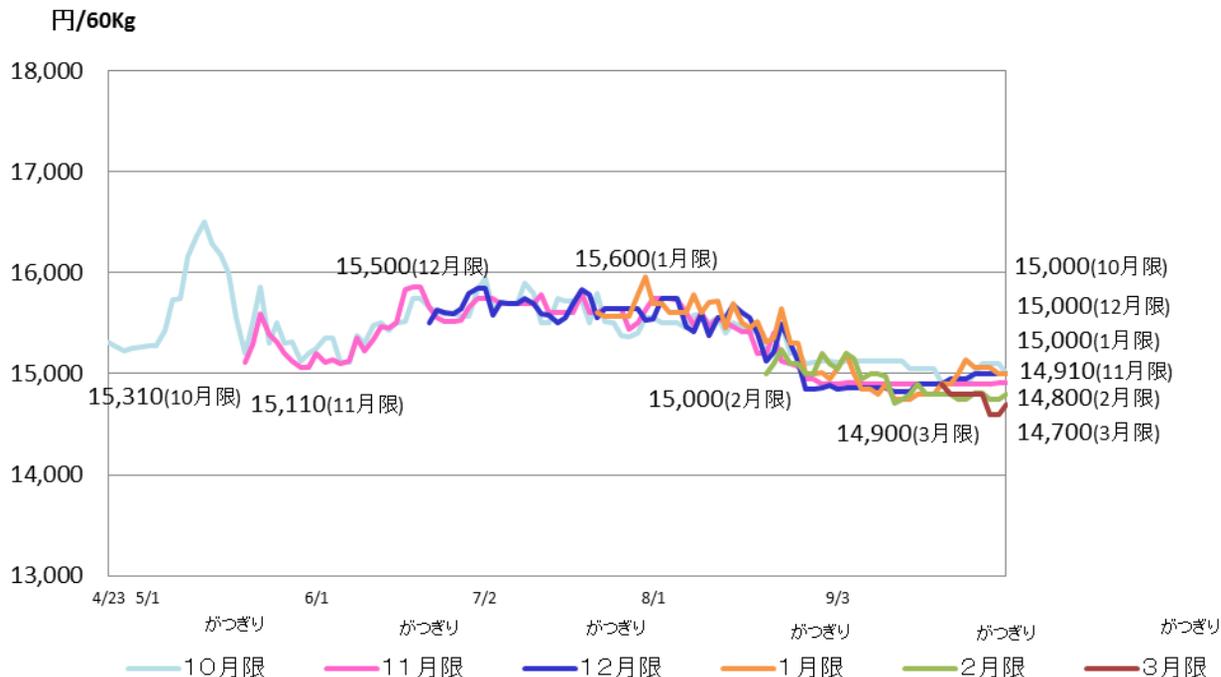
(4) (株)加工用米取引センターの取引結果

取引日	商品名	終値
平成24年9月3日(月曜日)	24年千葉ふさおとめ(主食用)	15,800円/60kg (263円/kg)
平成24年9月3日(月曜日)	24年千葉ふさおとめ(主食用)	15,700円/60kg (262円/kg)

資料: (株)加工用米取引センターHP

(5) 米の先物取引価格の推移

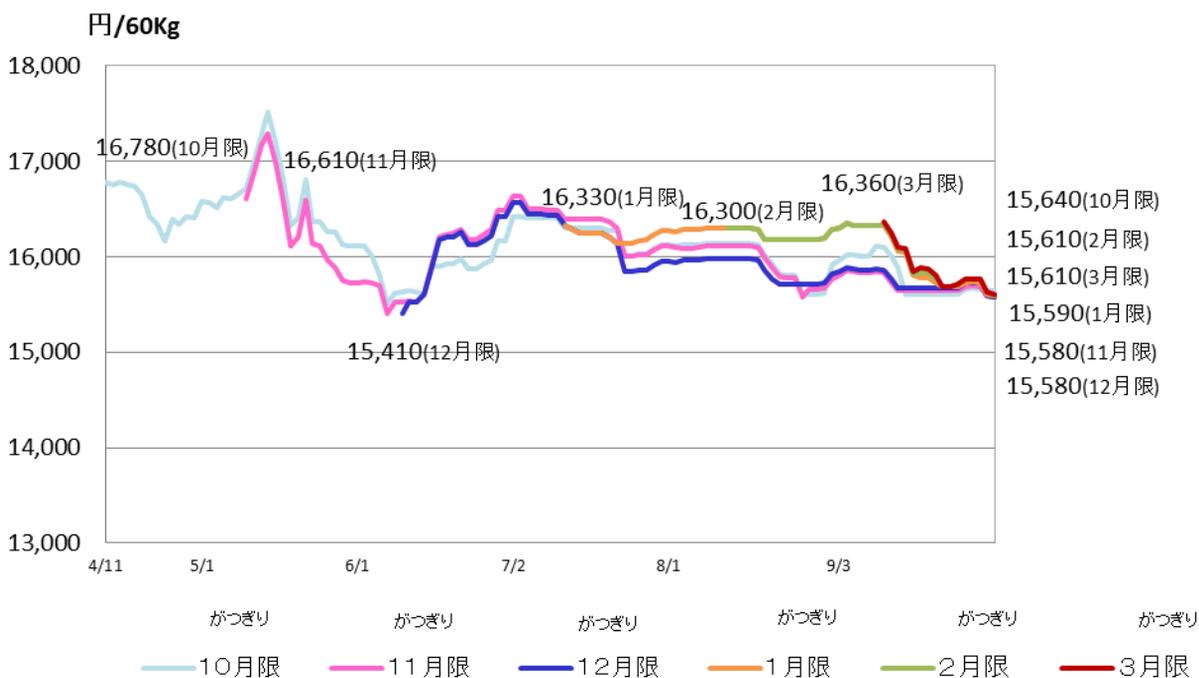
①東京穀物商品取引所



出典:東京穀物商品取引所

注:取引開始から10月3日日中取引終了までの価格の推移である。

②関西商品取引所



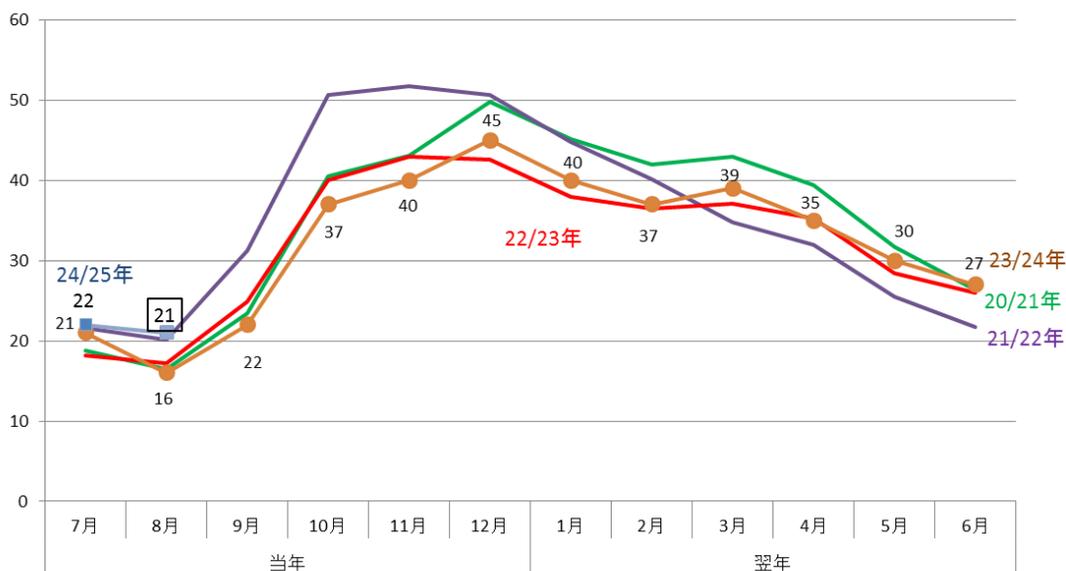
出典:関西商品取引所

注:取引開始から10月3日後場第3節までの価格の推移である。

### Ⅲ 卸売段階の動向

#### (1) 民間在庫（販売段階）の推移

単位: 万トン



(単位: 万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
20/21年	19	17	23	41	43	50	45	42	43	39	32	26	35
21/22年	22	20	31	51	52	51	45	40	35	32	26	22	35
対前年差	+3	+4	+8	+10	+9	+1	▲0	▲2	▲8	▲7	▲6	▲5	±0
22/23年	18	17	25	40	43	43	38	36	37	35	28	26	32
対前年差	▲3	▲3	▲6	▲11	▲9	▲8	▲7	▲4	+2	+3	+3	+4	▲3
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27	32
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	±0	+2	+1	±0
24/25年	22	21											22
対前年差	+1	+5											▲10

資料: 農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」(~20年7月)

農林水産省「米穀の取引に関する報告」(20年8月~)

注1: 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2: 米穀の販売の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が4,000トン以上の者の値である。

3: 期間については、23/24年であれば、23年7月~24年6月である。

4: 22/23年7月以降の値は、速報値である。

5: 23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。

6: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

## (2) 業者間取引の状況

### ① 日本コメ市場（随時取引の結果）

○ 価格は、主にスポット取引の価格であり、相当期間にわたり安定的に行う取引の価格とは性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。

関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg

年産・産地銘柄	9月下旬	10月上旬	10月下旬	11月上旬	11月下旬	12月上旬	12月下旬	1月上旬	1月下旬	2月上旬	2月下旬	3月上旬	3月下旬
23年産 北海道きさら397	-	-	13,903	13,992	-	14,000	-	-	-	-	-	-	-
23年産 青森つがるロマン	13,461	13,825	13,678	13,835	13,884	-	-	-	-	-	-	-	-
23年産 秋田あきたこまち	15,333	15,096	15,233	15,437	15,294	15,427	15,466	15,523	15,483	15,479	15,679	15,713	15,679
23年産 宮城ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	14,320	-	14,805	14,726	-	15,490	-
23年産 福島中通りコシヒカリ	-	-	-	14,262	-	-	-	-	-	13,979	-	14,236	14,415
23年産 茨城コシヒカリ	14,658	-	14,878	-	-	-	14,873	-	15,274	15,390	-	15,254	15,489
23年産 栃木コシヒカリ	14,545	14,725	14,803	14,857	-	14,931	-	14,938	15,249	15,750	15,481	15,481	15,575
23年産 新潟コシヒカリ	17,597	17,941	18,021	18,614	-	-	-	-	18,758	-	-	-	17,903

年産・産地銘柄	4月上旬	4月下旬	5月上旬	5月下旬	6月上旬	6月下旬	7月上旬	7月下旬	8月上旬
23年産 北海道きさら397	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23年産 青森つがるロマン	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23年産 秋田あきたこまち	16,201	-	18,392	19,195	-	18,633	-	18,761	18,758
23年産 宮城ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23年産 福島中通りコシヒカリ	15,546	-	16,956	-	16,750	-	-	-	16,348
23年産 茨城コシヒカリ	15,757	-	-	18,254	17,800	-	17,137	16,871	16,843
23年産 栃木コシヒカリ	-	-	-	-	-	17,540	-	17,133	-
23年産 新潟コシヒカリ	-	-	-	19,265	-	-	-	-	-

出典：日本コメ市場株式会社HP

- 注1：随時取引とは、取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引である。  
 2：上記価格は、日本コメ市場株の取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。  
 3：上期は、1日から15日まで、下期は、16日から月末までを示す。  
 4：「-」に関しては、成約数量が日本コメ市場の内部規程で定める基準を満たさなかったため非公表。

### ② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）

（主たる銘柄の成約状況）

（単位：円/俵、トン）

年産・産地銘柄	平成24年度							
	第1回 5月10日		第2回 7月19日		第3回 8月23日		第4回 9月13日	
	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量
23年産 宮城ひとめぼれ	-	-	18,793	33	18,206	26	-	-
23年産 秋田あきたこまち	18,949	91	18,810	43	18,200	24	-	-
23年産 山形はえぬき	18,640	48	-	-	17,842	61	-	-
23年産 福島会津コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	15,500	48
23年産 茨城コシヒカリ	18,189	78	16,930	79	-	-	-	-
23年産 栃木コシヒカリ	-	-	17,400	44	-	-	-	-
23年産 千葉コシヒカリ	18,225	67	-	-	-	-	-	-
23年産 新潟一般コシヒカリ	19,083	133	17,781	47	-	-	-	-
24年産 秋田あきたこまち	-	-	-	-	-	-	16,334	122
24年産 茨城コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	15,510	60
24年産 茨城あきたこまち	-	-	-	-	15,900	36	-	-
24年産 千葉ふさおとめ	-	-	-	-	15,969	48	-	-
24年産 富山コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	16,754	53
成約米穀の平均価格（加重平均）	17,829	1,278	17,264	505	16,611	463	16,307	473

出典：日本コメ市場株式会社のHP

- 注1：取引会における取引は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において開催される取引会において入札により行われるものである。  
 2：価格は、1等、包装代（紙袋）含む関東着基準であり、取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。  
 3：「-」は、同社のホームページにおいて非公表を示す。